中村俊定文庫
文庫 18
447

宮城縣立図書館

中村俊定文庫

序上　　卷柏舍

梅冒

杉の中路のうらへさき水のうへ　木客

春ふかうてかすむ路の羽あつき　乙児

樓へ昇降の長階ふみ　冨

明〻とかへぬよぬくひ　客

一ちきり腹をゝせゝさん律　児

夢の香をんと寝ゝ起ゝ

取ちらしゆも常茶飯なるを　富
氣守の氣乃樹る尼法寺　容
形の皆ハそらに風名もそこ含ね　児
そらの雲ふるしるしるしるし　富
雪角ゆまりせく道を縮ちらへ　容
春婆角鈴しも形しハ痩まん　児
いそ雪北それを見せそ欠陶り　富
泊り沈りて枕のちらめく　容

やぬ入も四条五条をもとりかけ　児
あまたゝ伊達を作山ふゝ　富
茶のそろひそろひ魚のあもしろさ　容
枕の位そろ枕のそんそろ　児
そんなもまそ新面の壁折紙　〃
形ハ茶とその鬼の日よさへ　富
二筋もそうすもそそそそ縛　容
あつめそそそ冬の鈴ハ　児

あふぎもちゐるのまとゐ　富
舟こぐ女の招くゆふ紙　客
まい火のあやしきまで又慨く　児
むしろの足乃鄙る須板　富
きんちうと刑こぐ紙笛　客
中川も雪ふりかゝるよみ色　児
只の夜も涼しく自夜八形すし　富
歌をとゝるあゝ庭をあゝ石　客

豊後の浦とゝ近まいり　児
又ゝ袖の西我峯まと　富
哦るゝゝろくも義の世ゝゝ　客
まさ姫義もゝゝてゝつゝ　児
ゆゝの住連ひきハゝ第一木　富
頬白の沢ゝうゝひすの笛　客

伊豆重須　潮来舎

[illegible]　祝國

[illegible]　五鏡

坪刈の[illegible]と強の肘　夕菜

うしろよ越[illegible]附き　官嵐

帆[illegible]　乙見

眠[illegible]山[illegible]杉[illegible]一[illegible]　執筆

[illegible]　陸

抱ハ抱[illegible]　國

浦陸海の[illegible]小夜更[illegible]　嵐

[illegible]ハ水鄙も通ふ長町　菜

[illegible]　児

[illegible]　陸

[illegible]　國

[illegible]　嵐

聖霊も杉風とそれさうなる哉　柴
あるかつれ碁盤をふさん　巴
苔ぬれてしとしと夜もふし〳〵雨ふる　陵
小田うり畑の阿弥陀ふる雨　國
俳諧の雨里宮き弧ひいる　嵐
陵の藪方系てふいうと　陵
雨を物語の母乃治つしてうり　巴
家貸の味ある質のはもうり　柴

志〳〵雪を雨〳〵夜あ〳〵よ志てしまひ　國
鶉鶉うへ〳〵の世てハあり秋〳〵　巴
けう服をかく〳〵覚のあ主ハ秋　陵
墓のきけんのいるよ雪しぬ　嵐
侍氣そう〳〵秋〳〵一在不　柴
仏の〳〵藪の最うそきうい　國
ふ〳〵きん雨〳〵れふう雪ぬ〳〵　巴
宗祇と志〳〵ぬ祖父のおもう　陵

ウ

温泉舟うつせこぎ小橋くぐり　蘭

くるまより先に骨牌をうつ　葉

雀なく夜明の雀ゑ村すゝ色　國

ふいとうの家は師走　淺

かゝゆみ柄も茶の立まゝ　児

枇杷のあるうとゝ玉の小柿　蘭

三島　之山亭　桔羽

野路や節句の喰も立のまゝ

稲てき休む岡ゑ夕日　尺里

うゝ笠うゝ足ゑ尾城の暗迫　乙児

伯父うとゝ伯父ハ美人ゑ　子姓

雪吹の夜推せと折戸のゆゝ　仙花

うゝゑ用ゑの紫うゝ蔭うゝ　胡竹

ウ

春浅う傍ふ陰のやうつつ　官蘭

京袍ひとりとなるゝ生姉者　羽

清涼の側うゝ笑へハらあねと　里

そこみ出ゝの柳ゝ新ゝ　児

見る如眉もゝ桃のあをやぶし　妙

繻ゝ古い雛をまつう　花

もぢゝと牛も池を食ふ居　竹

ふの陰屋う山も動きて　蘭

似ゝるやゝ志ゝ志つまるあをし　羽

拭ふゝゝ亦汗のさゝ　里

ゝ日の氷う　児

部の旭ふ　妙

ちき鍬のさゝと自出さい事のう　花

ふゝふるゝもゝ立めめ　竹

金咽といつとゝしも雲の中　蘭

三寶多のるを虫手つる　羽

京人まゝ讀めぬ書あをくり返し　里
をとゝとゝ　児
雜役もふゝて庵ゆふ七夕　蛙
いつをも淡語くさん　紙　絵　花
さふさはあゝまへ帶を振まはし　仲
むふゝ恋を思ひ切すれ　嵐
自ゝ雲志ゝ　静ゝ庚やゝ　児
光る扇をきゝゝす　花　里

ウ

京ゝの夜ゝ　ゝ萩の咲ゝ　羽
見まゝほ春の名をく嵐さめ　蛙
をゝけまをゝ　ゝをみ云めゝ　花
雪たもをゝ浪のきこへる　仲
をゝけゝ暑ゝぬ雲の伊達を　嵐
梅もちゝ屋ゝ代　児

旅夜書懷

[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]も[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]鹿の声　乙児

ふる山源[illegible]三源[illegible]の月　元子

水の秋[illegible]の勅あり[illegible]　盤古

國もやい[illegible]和洞元季　松柯

鈴響も[illegible]の[illegible]　如茨

ひとりふる[illegible]秋いく[illegible]　雪也

ウ

[illegible]も[illegible]ぬ大工も　兎夕

付も被のふしぶりあれ　児子

[illegible]の初[illegible]又付[illegible]　古

比翼も[illegible]取あはせもの　柯

[illegible]の[illegible]庵も[illegible]　茨

[illegible]小科戸の風地舟鉾

[illegible]の月鉢の白ひもすれ[illegible]　也

[illegible]甲製もちき鉢兵の[illegible]　夕

うゑをかくれけよみうぢき　児
西坂なりさき居るゑ　子
次猫の家あるそなゑ肩くるは　茨
桃の楚乃鼻へあふい　柯
わ仏まて内侍の督乃腑し　古
をわ無の山その義の山　児
濃へ〳〵きいを乃り　夕
るる峡を祖又もろも　也

うふ飯上ケてとうき世源人を　子
豊樵竇の友を〳〵ふ　古
機蟠や笛もきこゑ天物杓　児
虚空俵ゝ窠芝つゆやく　茨
うの瓦まの節迄のゆむ不　也
るなの池迄ぬゆもまく　夕
渺〳〵と月のひとりうへを　柯
賽サイ〳〵角カの又裸をや　子

ウ

彼岸さへつきぬき伯母の地獄耳　談

さゝ〳〵ほゝ〳〵てゝすゝ臼　也

鏡あり窓〳〵菅を苔つゝ　古

恵系ひゝりのふへゝゝ　柯

明神も恋盗くハゝゝあり　夕

象小安角の糸遊ゆゝ　執筆

夜延　乙児

影又〳〵蔦丸きゝ

篤志ゝ〳〵古ゝ所の月　雪五

ゝゝ〳〵篤のゝゝちや振ゝん　二毛

別鏡ゝ〳〵咲おゝ〳〵かる　雪貞

二間とハゝゝも動あゝひゝ　梅冨

咲ゝゝ〳〵ゝ考反のゝ　執筆

ほそく女と食のおもり　五
ふの〳〵羹やさめて登諭品　児
け粥入けもそそゝふ煮ちゐる　貢
塩も久―い稲侯のさゝ　毛
弼傳のすゝこ度ゝ京三度　冨
浪ゝ移る入小妻ちゝ　五
月雲の折戸も昆布ゝ食後ゝ　児
こゝへてもゝ〳〵白眼　貢

大切ふあふむ金鈴おさ　毛
原首粥もゝんふ時ゝハ　冨
ちゝ屯ゝ稲荷の火ゝ和〳〵と　五
苣やけけきゝ冬も片つく　児
麻も角羹す芙蓉の嬢つくさ　貢
細ゝあゝやる蒙我の十郎　毛
おふくゝも善い吋ゝの忍ひやゝ　冨
もゝく雪ゝハさせぬ眉　五

只ゝつゝ〳〵　柄杓の氷つき　児

福井へ二疋るの直もふる　貢

つゝ宮ふるもきんうを窓る　毛

又ゝ来ゝやゝう地獄極楽　冥

まゝ白ふらるを艾の葉ゝふう　五

冨ゝゝ参る清水さくゝ　児

月のちろめ百の色のうち別　貢

踊ゝゝの京ゝはふへやゝ　毛

ウ

苦ふくへ来る恵もふゝる這まうゝ　、

入院ゝまゝゝ成ハふゝゝさう　五

ゝゝ来ゝ産人るのうち拾ひ　児

ヲ和ゝゝうふゆかゝゝ　貢

多ゝゝの火ゝ来ゝ京の鹿山宮　冥

寿の行乃琴の緒（タイモ）　苔

十月十三日　古夕亭

毋館の思ふも夜のあはれ　阿音

笠はきさえる松の下庵　杜兮

住をひらくぬ車をひき捨て　巴雪

寄うとすれそるもちろ　曰平

あきはふ至名月も長さう　兮

笹ものもろ山も霜　音

ウ

角カとうのゆうやさしい物かな　平

まく墨乃干ぬお亭多まいれ　雪

あハ海うしろハ山を屏風　音

きくハ寺の長ハ変　兮

木のくしに納ふも思乃味ゑ　雪

さ神と呼るう自の夜芝居　平

爰も亦十万石の天ゝ代や　兮

ふるさとをくる糸科の格子　音

ちぢんの袖も乾るのきしと　平
洞雀喜地ちぢんはわくまし　電
一ぢんの牡丹をよそに祝せよ　音
郎をすりくの友ハ来よけれ　兮
孝りのいつしゝ脉もえるひ　電
侍やゝ記やゝ仮名ゆゝ生ゆゝ　平
為ひも恵をてゝ九年　兮
師走の浪のそゝ陵ゝ　音

森ゝの思ふ麻の友かゝて　平
七食もゝれ星日夜ゝ　電
三ゝ踊もいゝ月胴ゆゝ　音
いゝきゝるをゝへゝよの　兮
ゝゆゝ中をゝゝさゝ竹橋木　電
又呼ゝあゝあゝ之の相見　平
雲をゝゝきゝ高ゝ京の加ゝゝ　兮
羽掛酌の冬もゝゝ　音

情意すれ時も隠しめ律令　平
何ちよりとい〳〵へと惟光　雷
惟光ハ麦めし蟬ひ粥きひ　音
さらとハ柴の細ゑるゝ　分
咲花もちる色もうれ咲ひ　平
やもひの意ゑ三月の空　雷

細師の延命薬善うやとれ　乙児

庭風ゑよやすきすきすゆ夜風
吹こむ垂の磯くさい垂　無説
雲りもうれ物のうくう　柳市
うち一ゑを猫もちやくしも　朽睡
うのうちゑうの茶椀のさしうて　役味
役ひおち物さ山もきうろ　児

ウ

糸やふの餞ゝ[illegible]陸[illegible]ろ　説
娼女も爺のさゝとさハふゝ　市
つゝ湯のゝれを仲人のれまハし　睡
又逸ハせるさうぶさう　味
おゝゝさんろゝ京も眠ゝき　児
ゝもひゝ清仲の庭　説
ゝ仲もゝよろゝめの枝ゝ仲く　市
横とハ人ゝ又せぬぬゝろ　睡

ナ

やハゝゝ乳筋てあゝまをぬゝんろ　味
何ゝ不思議やる嗅逆さゝと　児
ゝゝゝゝゝゝのの目ゝゝまよける　説
鮒もゝちゝをゝ[illegible]ゝん　市
さハゝゝ彦根の秋の女中ゝ　睡
お合傘の百ゝ晴ゝも　味
あハさんもゝハ石塔を注ゝやる　児
牛さハゝけゝゝ仲の茶ゝ　説

施くさも百合若の末さやかに
彼のうらうら金ときよらか
古札を森のそよぐ吹ちし
神食ふとりはの珍鉢
ををかの中よりつゝ法は武者
枕ちしうこれ舟さらに
さしりてのうるとのあい目ひとり
さふらうとけうきまふ笠う次

市　騒　味　児　説　市　騒　味

やふ入よ小まんもんせるあうう
るをのうゝはのあをあを
酒うふをのうう墨うう
む自きうゝ地弥生中自
さいうるよ徑のもかをうを
うるふ的をの笠う弥ゝ　執菊

児　説　市　騒　味

魚戸　　弥兵衛庵舎

嗚きまりくきふ海嵐夢まとり　仙風

きまるうゝ宮き格の月風　泰年

あも蝶庭ふ付つまて　金鬼

物いれくある孤ふしくまれ　梧泉

四目をちるよの波つくり　五丈

積もかくれ様雲もふを　孰華

笹の郎あんと橋乃陸絵子　子丈

せくまくまる磯ものくふし　乙児

かこら仲らしく雲蓋をくへぬる　年

陸のく時乃至をタ〻秋　風

風くまく響もちまれくいくふ　泉

かまあ物の槃雲くし　鬼

目を閉くあ火咲せる訳くろ　児

蚊もよりいつ周囲まくふと　丈

新菓子雲隆あり彌の京ん　風
鎌倉こちの濱を紙と濱　来
郭ろやうふぶすあうう　鬼
琴笛をろうの友も風ひく　年
かいしゝ飛るの鶴しあ　文
まさゝ池やうゝ湖やう　泉
子日の寺孫寺も蒔いせ　来
大工の嘯飛片肌乃すゝ　児

乃甲斐の行ハ窓もうんふ時　年
杉のあゝうゝ神のお庶り　鬼
さちう村まゝも麻彦の世巫ゝ　泉
舟おろす日も後家の軍砲　風
又ひゝ祝ゝきゝと拍子　児
幾舵ゝ亭うゝ詠ゝあうを　来
うさゝきゝけゝ自も入る宮　文
踊ゝつまゝ勝もろいす　風

ウ

雪のうれを書せいきれる
氣ハ入まゝ篠のせんゝ　年鳥
朝日あきゝ鳴まゝ　児
須ゝハ消ゝ雪のきゝろも　丈
滑稽を仮名よ崩〳〵苔の皮　泉
かゝゝ引や後へ寄のさゝつき　東

十二月中
仲冬

小雪ゝ小寒ゝ冬夜ゝ　乙児
鳥飛(テ)関月晴　梅富
杉林皆ノ〻　〻
ゝゝへゝ菓子をゝきゝ　児
かゝゝき大文字焚あゝ　〻
藏開猶繁榮　富

ウ

俤俤のうぐひすや雀のうんうん　児
呵るやうに人もやうてちうハ里　冨
洗濯如角照　史
蹄跡仏飴明　冨
冨士もいとやさやさの庚りゑ　史
二ヤさしさハひゝゝ恵数　冨
かゝりつゝ自よ遠よの酒ふゝ　児
鹿笛又數声　冨

青ふりき仏蓋の瓦拭ちき　児
城あきるひも天和六のゝ　冨
傘不知花雪　児
ゆゝゝ妹の姿を次あゝ　ゝ
ナ
引立影北雁　冨
取落音南京　児
姿みゝ映ゝあゝいとゝや　冨
山の吉関の爭を相役　児

精ゝもいあまもいやゝや咲ぬひ　冨
まゝほゝきんまんてもふゝ　兒
共泣祇王母　冨
糧恐曾我兄　兒
この幕も御ゑのゑ除足せゝ　冨
形まゝ成ゝ陸　もゝ　兒
歯賣矣都月　冨
芋洗焉鄙營　、

やふ入のゝゝいむゝのゑゝ足　兒
又ゑいゝゝやゝゝ陸ゝ　冨
諸ゝ乱蛇籠四ゑるひきゝ　兒
白鷺焉誰耕　、
るゝ鍋まゝゝゝ生のまゝ巻き　冨
蓬餅萬國青　、

歳杪　金鬼

〻木樵これも樵とて踏しゐ
皆〻ちら〻〻岨の雲ちら　て　兒
逸ひなかとちらふ響も携ふせて　〻
をのち茶も多しくと　鬼
ものこる光もちりもも日や　〻
簑り　すりふふり　蜂　兒

ウ

戸子尾と鈴あるやしよちうも　鬼
位〻ハ動す新のいをり　兒
都多あをハ薗横む舟てを　鬼
さあ思ふねそり芋も動ゐ　兒
休せるうちも奈を為せて置　鬼
むしをちして鈴をさ〻ふさ　兒
内彼ハ古やうをもふををふ　鬼
程ゝ白り琴も弾まい　兒

聖霊うかりて異人やうの三つ　鬼
京澤山の霞の世界　児
弱き者の枝よりも　鬼
伐きまも陽の枝ゝき　ゝ
枯ゝ敷葉も男の　児
追従撃者のつせゝ完ル　鬼
鈴ハ夜の明やゝも思いやゝ　児
さ的城乃雲ハ星ゆゝも　鬼

そゝと発うり撃もせつゝ　児
高うゝち葉の小紋仍ゝ　鬼
小徑もまきあゝ一きみ天唐　児
宮古うつゝの猫も泥うゝ　鬼
病も脱されゝ孤舟もかうゝ　児
紙うハ帆のいゝて流れ　鬼
陸敵さへ分延の自ゝ流ゝ　児
餅もあづきも栗も出来ま　ゝ

ウ

杉の葉下より淀治とのもお意う　鬼

智乃名ゝ乃森そゝう　児

いつの宮よ寄ゝ時の雲のゝろ　鬼

むさ居ゝ田路のゝもこゝも　〃

苔の袖玉津島やふゝ　児

神乃ゝゝゝもゝゝ雲の日　〃

駿城

ゝゝゝゝも鶯ゝ傍ゝ男七ヲ　金鬼

似塚のゝゝ名を哭ゝゝ夜ゝゝ　梧泉

白菊ゝ移ゝゝゝゝゝ女ゝ　仙風

ゝゝ葉や妹のゝゝひの霧ゝ　渭水

ゝゝのゝゝ秋ゝ菜の色　五丈

芭蕉ゝゝやゝゝ雲ゝゝ　六貫

あきかぜふく時ごとに秋之雲むし　子素

森見えぬ　南江

泊まのあらうみやきりぎす　三保

女さくさうぬ角を男鹿うふ　このゝ

きつつきや鹿啼やうも桃もと　少年喜雪

あハきよハきうとあるかうの　居逸

作り人の戻りハぬきゝ葉ふるゝ　琴馬

ハきさゝや新ハさゝ風　葛母

蔵ふゝ形ひの条ふ柿　女綺窓

見ゝハひとりのものやほの白　如茂

雪ふゝ更ゝ松ゝきぬゝ　杉柯

紬ゝふ雲ゝ百やうゝ足　かつ

きゝ雲ふ肌まゝせゝ足ふ中　ひさ

秋の霧うときゝ萩のさゝ色ゝう　雪也

夕月宵や深いろの山を遠うせし　島田　米汁

望もあるものの名ゝをほめ自　女　旭仙

角力尺や梅よりあぬ奥歯まで　小島　琴口

木下ゝの加ゝさあるえる夜空ゝん　庵原　紫暁

蛍実ゝ枝しゝ杉の雲りせん　翁　玉

月つきり陸を乱の雲ゝ　丸子　菖丘

すき砂やえゝるゝ遠ゝる蔦いつつ　梅児

夕ゝちの雲ゝもひるあす砂ゝゝん　久ゝ保京　梅后

蓑船やあゝゝあぬ水ゝゝゝゝ八蓑　沼津　於人

眠ゝゝと雲もあゝゝ巣山ゝん　磯常

雲ほと深のゝゝゝゝゝ畑　富士川　竹館

もつゝ男の名蛍ゝ尾赤糸　八幡　梅裁

蓑ゝゝや月ゝゝも棚のほゝいつ　長沢　斯文

水ゝゝ尺ゝしゝる来ゝん不ぶ　久保　雨竹

ゝつゝや塗ゝ人と蓑ゝゝ　曲金　風人

ゝゝの考ゝも恥す女郎花　可悵

木陰より遥かに峰やまうつす　蒲原泉中

素もの〻栗乃あるゝむ野う卯　歌古関

そはゝ火のうつ而よゆゆきめぐる　由比打臨

志ほ〳〵と白のうつ波うつる　茶友

かゝうきやゝこの下もかるう峰　竹友

土の目乃うつ色〳〵野ふうれらあ　片溪没嗽

いつうつ〻野も左ゆ〳〵や中の声　江里

影白し〻ひうるうつ東山まで　臨流

てう〳〵時風の出うふ桔梗の卯　廬中

のうち乃目よ者うるふつるうう　借水如柳

いとう〳〵き目や芭蕉のう〳〵　表雁路

望よう〻へ目をやうるゆ中ゆ　城腰和柳

仰向くようう連し木のう狩　麦嶺

名目や雲う地をゆ〳〵る乃新　買山

苔う〳〵やこの時よの中ゆ〳〵　昔我

歌う山う〳〵

り松のうゝみや菊の杖〻う　志の

放生会かしもうをきつしうの　加島　蘭皐

自の字西へさきまく角カ丸　竹　卧

山ひくみふへくへくらう後の月　天満　多づ

芭蕉葉やとしはあと思ふ夕　吉原　巴雪

鹿一本さひしうもきこゆ　三遊

淋しさをぬくもりふしく蒸ぶ　雪朝

物うねの寒さまさまきひろう　和雪

多ふる成くまの書よぬふを　き人

糸をくかしくへくを踊れ　樵花

沈むしやはの兼ふきもも　雪貢

月雪やいさ石仏の様千人　木容

名月や一きしく嫁のさんくる　雁奴

ち雪ふり雲あつくも月いの　友絲

等しくうい心のちいきあくふ月　杜兮

ひう梢く蒙をひるしの茅白氣　知燥

夢ぬ中や酒の白いぬ人宮き　白鷗

吹酒す酒　若狭さいの河ふる　木おいへるるふ　二毛

遠倉覚古

風雲ひるもぬ夢山るもふる色　乙児

仁の高詩

明よ景貝のみきや秋の風　丶

秋の雲親せく弦琵のまもるん　雪五

秋ふ白や志ハ一ふるもぬまるる　三島　如髮

明さるハ艸ふ白やむやむ夢　紫雪

名月やひるもぬさふ海のへ　波曉

月影の白ふ風やきりす　洛兆

波の音折ふ一こく夜宮ふ　嶺扇

名月や宛も艸の浪皆ふ　お手乙羽

忘菓や来るハぬるる蝶ひる　胡砂

猪のくりくりや萩の花　下田　素堂

かくれあるの人り酔ひや蓼の色　一曲

くれは来合ふ合点う走の菊つくり　澤口

呼うけくまくまる雁やけく舟　里乙

いう栗のけう後陰を送ひくう　三津　居石

形くくまくく拵るおふき薬山まん　去留

山松よくうてくみ煙をけくれある　官鼠

名月やくくう彩るのけくまて　江向　夕菜

糸蕣や蓼のくくう神のこと天　我羊

くんふくくの枝くいくくれ蕣くん　安久　久連　十

ちのくくるくやあくくんぬくんぬ　北条　寿島

をのくくを　古音

蓼ふさ吋もあくくを義一水　立野　以文

くんねくくのくくくくくくくくくく　如風

自新くすくくけくくくくくくくく　白花

こくくくくくくくくくくくくくく　古奈　石鴉

蚊やあるかの方うさんせいしふき　在江戸　紀米

あるかるかるかる峯かるかる西瓜ふ　椿之

ふるを抱かるかの初ほいはるかるかるかる　米児

蔵ふ吋もあるかしふかるかるふ梅の角　魚文

ちるてさへは夕ふれをやふきれ　自笑

唆のをるかるてのれ芙蓉の卵　顧州

雲さるるるるとのさるれ雲のむるる移　盤古

半鄙ふ雲の雲深や宇治の里　耳得

水の老ろろろるるるるる祇のゆふへ小　蓼麿

志るる空やつもるるるるるるるるるる　荒丸

志るるるるやふるる野る雲ののるるる之　奇峯

冥々ふる雪の聽くるに海嚴寺　蓼旦

瞬ハや梅の如蕚も一二つん　雅堂

見〻ハ水のまきれ蕚菓うれ　冥三

杉妙原弟代の井戸をくつあそう　東女

麦苗やつゆ霜ぬるゝ乃もゝ　移　葛母

三〻響の響と成るうそ乃の雪　落梅

荒磯ゑ杉木ひろへもあるあらし　島田　柳雨

四方ものも不二ゑ成るうけさの雪　庵原　臼梢

雪ものや片良近ゝ俗きゝ成　巻雨

吟上ゝるゝ多ゝ晨る自　庭の雪　梅雅

角力とゝも老ゝゝ菓　喰　小島　這来

ゝの雪やきのふのまゝ竹も何　吉川　一有

ゝつ雪やまゝ淡菓もあてぬゝ　霞船

袖ひちてもとめし小まつかな　浦原　琴橋

ちさきなくさてもはるゝ水仙哉　素桃

おぼゝろとは日南へまいん氷の柳　由比　桃二

ぬるゝすの羽音ハきゝし雲の秋　片倚　朶雪

あるかや雀ハ雪のつもるもの　龍石

柔の手ぶしゝ蕗ゝ　富士川　梅籬

きゝ雪や眠ゝ山の又笑ふ　上地　少雨

峠中り解ゝ氷仙哉　今泉　盛尾

傘ゝ富士をふゝゝんの時雨　根方　波光

自のゝゝ雪をかゝるや初しゝ秋　雪兎

その形を流ゝ足ゝき生海嵐ん　丹木

雪みるやとの山ゝ目を休せん　三紫

雪ゝも差のゝゝ雲夜ん　成沢　氷壺

稼ゝけん大さゝつきのゝひす俵　城腰　嵐量

すゝ寒や折ゝふゝ雪を乗ゝ足る　茶橋

そのまゝ寒木冥ゝやけさの雪　昔我

雪ふるや寧乃三の毛ハ勅けども　菊児

俗ふる岩のしら絲ハ　吉原三遥

ふるゆや峰ゆきうん筆ゆ寺　和雲

半ふハ之保ふしをく時白ふ風　茶六

水音や為ふ里風さ之ハ為　井梧

為多ゆ側ふ　木容

陸ふ俗ふまのちつまし久絲ハ　雪貞

庭音ふ寒さ　二毛

ゆふこの西へまりれた雪さの事　雪五

水音や流む元きの里ふふ　深谷提國

席上

是男ふ多ふ神ゆふ紅し里　鐘山

為茶ふふ梅ハもん庶ふふ　一之

ふふ雪も雪の言間と的ふ多　仙風

ふ雪やふ久ハ氷ふて松乃音　五丈

加へ里雪音小ゆ雪ゆ白ひふふ　梧泉

尼寺に思ひ捨てん殆至什　子来
あるこのあるみちを若い沢中に　之仲
外とり勢くちやりさの色　雲路
辛時も色の清こそ初しく色　涼波
風一さい食くに来の前とる　浦舟
廻板の枕りすへるあ下古ル　大仙
二天うとり乃帳うあ子冬牡丹　糸年
ゆうつ猪ゆ家らめてうき紙衣に　金鳧

きうきの鞠や砂角の牛ゆ角　五湖
樓ふしと咲くうせりゆへうる　連枝
夜あしのとうきくくく氷に　子什
不二とうるよしくもくさ穂ル　古限
初しくを接る物ふと詠うう　烏考
浪くあ舟のよ掘や蓮　氷　乙羽
そそくの小枝に置く泡に　素定

かり寝しまくらに舟よる夕べ夜の風　尺里

さらさらや粧のかしい櫛ひとり　久連　蛙旬

腸を骨ふしぶしに感ずる海氣　江間　我羊

降もの〳〵まさまさまぬ空さび　李卜　日向

酒ぶくさしまあもあり空寂佛　変雨

さらさら雪や冠り置く尺ほど　北条　竹葉

夜をこめ人のゆき〳〵や百の市　在江戸　竹角

列國書音又傳来

上略　祇園一俳人六花庵を訪ふ

久かたの雲ひらけ〳〵園居八風吹の

車ふる

東都　立路子

〳〵見ぬ奥の岩見つるふかさ〳〵人

尾陽　及古房

大根の尾ほそもくろかるかふ

京　李完

て多や火〳〵多くひも女夫口

尾　諸九

祖父ひとり寺に居ふさ〳〵

鞍馬　賀古

辻堂にとまりもあり〳〵朧自

下閑の友い思ふさくらふ　東武　周東
うゝひすれひるゝ蹴や舟ゆ　芦中
撃〳〵ゝるとんのきりふ　求光
雪の茶うきき柚の膳日うゝ　花明
椎乃茶う飯もる里や蹴ひいふ　相模　得魚
椿ひゝいきつうふゝるゝ梅ふ　壺外
いゝめ〳〵ききのひゝへ〳〵や梅の茶　麥由
休せゝやゝゝき物や学えの風　遠江　南素

ひろい茶ゝ多い物ふゝ四ふ〳〵ふ　甲斐　吟舟
ふ婚の眠るさゝうや遅さゝ　鯉文

美濃　以哉坊
茶茶ゝ下りよゝ舞ゝひゝう
伊勢　柳良
物ゝ〳〵ゝ雪ゝうゝ雪ゝ白
津　二日坊
りゝの遠ふへゝ茶く梅ふ
飛弾　滄州
六花庵子行よ
ゝゝう茶心ふ〳〵のを
出羽　鸞窓
降ゝ経ふ沙ゝるゝ茶ゝ空

梅さくや蒙うもれぬ本堂のたく　越中　玉斧

雪まもるまくらぬ梅の白ひの妙　百茂

梅咲くあかつきの成うつり　遠江　馬浪

春の氷川あうつり流きうう　越前　梨一

紫ゆ泉やうもゆ上を物ひゆ　蕉雨

雪うさえかうゆあるを夕ひうう　加賀　半化坊

うぐいすい沈ーうう戻るやゆさう　尾陽　紀来

千金の兎夜うう成ぬ郭　東都　婆心子

牡丹ちれ日数や平家物うう　桃鏡

雪もゆの景うう投ゆや夜うへ　光中

水を泉とあるゆ時ゆ氷もち　範路

鶯うきふ閑を扇ーううすゆ　嵯峨　秋きく

雪ゆ美をさまへもうやーゆ時ゆ　風寿

ふ百や秋ゆ山うもうれ新氣色　遠江　胡中

あくゆようう哀や虎うう百　六の

塵埃のまゝ旅のこゝろも更　甲斐　萬候

かけ〳〵の風きへて〳〵せゝ義とゝ　小田原　児木

ゆふゝゝやゆ内ゝ稲ゆくたり　露賀

舟掉の森ゝかへるとすみれ　封姑

りぬけゝ袂の風や更衣　京　蝶夢

みの笠や京もそぜんゝ　加賀　珈涼

寺へ来ゝ蓮ふこゝろやたゝきん　すえ

猪ゝゝゝ乱置ゝゝ清ゝゝ　多代尼

山姥の夢理ゝゝ反木立　東武　鳥醉

芋の葉乃露こぼ不ゝゝ乃の花　東都　柳門子

名月やそはし火ひゝゝゝ塵　魚汝

一葉つゝかゝゝ果やゝゝ嵐　川柳

ゝゝ火のゝちゝゝゝ夜空ゝ　弄花

弱ゝの坂やゝ志のゝゝゝ　芦中

きぬ〳〵大のうへにかくるゝ　出雲　衣

惟之丞ゆさやかなれさ　遠江　理文

妹うまをりや苔敷〳〵まゐる道　信濃　仙朴

きりのやゆをぬるゝ宮へり　相模　春江

はつかの花庵　尾陽　桂児

はつ〳〵もさく牡丹のふ根ふ

きつゝしゝあもあつめ〳〵夜宮ふ　甲斐女　和さく

ぬるゝや寺ゝの軒の起〳〵合　伊勢　入楚

り秋や塔不見ぬ〳〵ゝ之の曼　隨雨

ぬるゝやゝゝさ焚ものゝ咲ゝゝ　常陸　五峯

不二ゝ（富士川）ゝや流〳〵ゝゝを川　越中　有菊

苟於〳〵藪の中心菜の茶　越後　鷺大

り條や望田ゝ物を置ゝゝ　越前　松田

ゝの帰樹も一さきり杉のゝ紙　加賀　麦水

飯とのも赤〳〵ゝ之夷　東武　天府子

股引の走入寄やモーロ[illegible]　御象
[illegible]　眠豕
[illegible]　陸山
梶のミの原もまぜて蕨[illegible]　枝貢
洩自[illegible]　北魚
泊合ぬ中の十ヶ月　大黙
水[illegible]　遠江　也牧
蕨の芽や[illegible]　甲斐　冨水

時雨との雲ふれて雲夜[illegible]　東都　芦中
衣[illegible]　遠前　洞波

蕎麦や思へば遠きかなん　尾陽　也者
庵人[illegible]　八龜
木[illegible]　鳥泰
[illegible]　加賀　見風
[illegible]　既白

羽をのゝ〻濯の春や水仙花　能登　笑鴨

行ゆく〻と巨燵の夢　鳴巣　柳几

思ふ〻あつめ〻床の宴さく　三國　寄川

〻かゝの味の極あり初しぐる　遠江　周竹

塗つさの根〻かつぐ松茸ふ　東都　嵐亭

埋火や仏壇あら更〻ゆく　人左

世五の寂莫も是〻あ春　雷堂

沙〻ゑ鯨のこゝへ乃千年〻ふ　吐月

やゝ〻木のこゝとくまゝ初しぐる　六窓

さゝゐあ春火〻ゆゝゝ夜の宴　蓼太

追加

さん雲やのこゝるものゝ八影ほし　井花

さつ雲ゆゝゝ秋乃深の雲ゝ　石露

いま一度ゆゝゝ見せん雲ゝ紅　雁砂

さつ雪や去ゝゝ初ゝ笠　龜庵

ちりそやそもも片岳あるくり　梅五

岐阜行

麦苗ゝ岡のうしもるしいふる山　乙児

鶯うぬ琴のうもき森やち良川　〃

近江ふる

木ゝ〳〵ハ稲ゝ刈ゝ田ゆけ伊吹山　〃

夫ゝ代やうきとん賑ふ志津ゝ嶽　阿音

良英子誄

爰よあハ神ふる物語のさふ〳〵ぬこ為江のゝ

何ゝ〳〵曙江子の幼息ハせふ〳〵の秀才を

諸葛ゝ孫ゝるも若を係んれ〳〵ぬ先ゝ

孝をつゝみて陸氏ゝ為ちも袖ゝ自ふ系和

慈恵の質をふゝ鰥寡をうふ〳〵を孤獨を

あゝれを又言喚のすゝ〳〵あゝ〳〵打ゝぬ相士も

餘ふゝ〳〵その容貌のんふ〳〵ゝ嘆く

美濃又ゝ乙柿こゝり殿の貴客かとそめて
此名仏里を問ふまさ穂を又母の法華きう
ゝ世ゝゝゝやれ礼かゝつゝき自ゝゝ乳ゝゝ
ゝゝゝとゝゝゝてゝその睦自乃ゝ侍ふんおゝき
咲を木陰ゝゝゝ

山茶花や母の墓も咲ゝゝ

又れゝゝ仲秋の夜ゝ名月や京八海苔ゝ
ひゝゝ紋古風のゝゝをゝゝゝ

名月やひゝゝゝゝゝい紋ゝゝ
ゝゝゝゝゝ習ハしゝて去年長月六日の
ゆゝゝ雲間の影の又をてぬゝれゝ虫のゝゝ
雲乃隈ゝゝ年六百田の市竟寺ゝ秋深院の
名のゝ姉ゝゝ姉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ小嫁ゝゝ移へゝゝいゝハゝちてひゝゝゝゝん
紙犢のおもひ差路のゝけきゝゝゝめやその
ひのゝ月ひもゝゝゝ清書の俤ゝゝゝ

くしきとも師範のまをそへ給ひしやと
ねちろふきてのたくひふるふるふ腹
ちしをの伊さへをさんに敷もすれさ
病の床に養うつもりきうの給いんをぬち
付佛施僧のいつふを天堂快乐の為のをを
うけ〳〵八木の乳女すゝ法華の功力むふし
かんまゝ〳〵れ木の男をやと涙ふゝり
れにをちのかゝ人しの物を使ひしひんに招魂

ぬゝふ八ちまれ世のうるまやとつまゝ男氏の
ちふゝ涙きめ湖るよりも告こしゆへと逆孫北
あもけふれハ坊をれ中を取ゝいりこの集乃
附録とハふゝあ嗚呼いゝまいうれいうんと
まふ口つゝ現ゝむへハ腕ゝるへをのあ
ゝきへぬつゝふる訊偏文ゝん伴のをゝ
成るのをゝ今自を

多ゝ祢坊朝首

一周忌追薦

慰めあ袖さへぬきゝ艸の露　乙児

いひしらうのそ乃ふゝ自　九湖

き山の雲わけもひやゝ　風條

聲らぬ先うゝ臼のこゑ　括羽

立ふゝ著れふゝこゝ人　如髮

よゝもゝゝ夕ゝちの漏　執華

ウ

吋しハをあるおうゝ陸陸ゝ乃　湖

あいゝ石うゝ耳を寄せて　児

ゝきめも加れ楊瓦の夕雪ゝ　羽

お経ハ海ゝ琴のゝしまれ　條

事事と食ゝ食ゆゝ起し　髮

ゝゝ乃ハ陽ぬ関の孫六　湖

夏の雲紙のまんゝゝと　條

ちゝしらやゝゝ乃しゝ陸ゆ　羽

この杉を仲山集うなる　児
須賀も曙ひろ〳〵須賀ハふを　髪
逗留めとし〳〵きハもあり　羽
こらハ鹿のこれ蔭〳〵角　條
くりかへしもあもく跡枕河　湖
せうけうこそ春〳〵もこうん　児
ぬ〳〵らんと麓の黄ナ移をこち挿ひ　髪
師走のこてうこんふ勅諚　湖

歌さうとこのひ車よ楽こ石　條
風もさ〳〵やく藪のてこち　羽
獨抱もこやもはもいこんさ　児
こ〳〵て長勝の場ハ場ふれも　條
兼房こうれのこうこん旅の宵　髪
雪入夢の月もうす〳〵　湖
侵蝕の足の手ふもおもしろ　羽
宵〳〵ぬうハのひうこをこ　児

近ゥつゞきこの舟あるゝ　湖

すこし暑おさまるふるゆかと　條

羽起り作大羽とさゝきゝる　兒

ひよゝまきゝ樹の賑ひ　羽

ちゝくと降ゝ人家乃如寺　髮

蒙のうつの雲乃むゝさき　湖

其悼

塚ゝ名よ加ゝ者や塚の雲ゝ飛　風條

秋のゝやゝ久さ俤ぬ竹もふき　紫雪

羽ゝやかゝぬ雲ゝ置ふゝ　如髮

行むゝふゝその体るもむゝ　括羽

いゝつふむ菊よゝゝふきあゝれ　芳仙

思ひきや翌〳〵菊をまのあたり　九湖

みるまゝ〳〵せぬ業のまのあたり　田平

よのよゝ思ひもあはぬ菊の香　呑吐

訓誦り推敲の時を歌〳〵
ちふのあはれも老のくせ乃多紙
作庵まろ〳〵侍へ侍へ

このむし〳〵乃耳ふむ夜もおろ〳〵　梅冨

古六花正當八百日ちかうして百の色
十七間ゝ引ゝれ〳〵ゆふへう　竹臥

せんさのるをまむ事や納豆汁

陸さへもの忘乃多く被　梅冨

風土記まこの山里此点ハ行うて　て思

藪役ふゝ何ふへゆ〳〵　梅五

自彰ゝひゝ〳〵せんさのゆ通ひ　冨

又ま季ゝかへゆ新　臥

ウ

鹿笛もかすかにきこえつくるを　五
そゝ〳〵ハ伊ぬゝのをりふし　児
むゝ百よりハいとうしゝ等うるを　臥
西りゝ文　覓　と深ヶ合ひ　冨
柔風ゐきこのきんの業しと　児
竟〳〵ゆゝこされ友乃三ヶ月　五
清ぬ寺〳〵ゝ鈴と吟声のおもしろさ　冨
淀ゝゝ中〳〵下戸もひ　臥

引〳〵ゝ等ハ連亭のいゝゝ合　五
さゝゝゝハ又　等〳〵　涌　楠　児
咲けく〳〵ゝ恋を柿の接乃ハし　臥
丁も　大　〳〵　帰　き　冨
毒もまゝぬゝゝ乃宮き書せゝゝ　児
かしこの新　地ゝゝの水　茶　五
てゝちんもつゝゝと初風の後つゝ　冨
け狩ゝ〳〵る風乃又ゝゝし　臥

郭公をちらるるこゑもまれなる
夜ゝゝ古き狐なるも　五　児
切ひらきくゝ田ゝ成畑ゝ成　外
又ゆゝしき樹をゆる谷合　冨
を隠のもいを留守とまつやう　児
をんふしやうゝゝ蛍をる沼之　五
旅かゝんあさも夜宮み成ゝ空　冨
笹も墨絵ゝ自のちゝゝ　外

ウ
ぬまゝゝも早稲の相場の粕ひろ　五
蛙大ゆゝく人のいへゝゝ　次
つゝゝゝ北良のまるをゝ詠め　外
笈摺のやゝ舟もちゝゝ　冨
ゝ教めるのゆいまゝ風もふゝ　児
さゝもくさいゝ萠かゝれ　五

餞別のこゝろ

六花は雪の異名ふゝ富士うすき手は
むさゝびあらくさくろさゝかたち
邂逅ゝ又離別すりもおもゝろへるも
あもゝろゝおもや

品川へ二里の休らや茶すき　嵐雪

雪玄峯居この章句は七十年前元禄のころ
吉六花束りの名まものゝ花吹手

一軸をて思うつゝ没後州庵の号を付
尾張の末名古屋のふるの集中に詳し
て思ふ樵山のもゝふきまてその姓いまゝさ
うゝ或は陶氏の門にいて閑明の後ろ
もあるひは残夢仙人十七代の孫とも
いへり

古老つゝ日ひゝら坊海雲むゝ衣川の
ゝらを経ゝ仙術を富士うゝ得ゝと

あ[illegible]中の長延邑よりもとのる孫あり
四十ふ[illegible]隠遁　嵐雪三世の俳徒
[illegible]の孫也もあり[illegible]
[illegible]隅田川ハたゝ[illegible]壬午の名月
ふ[illegible]夕[illegible]と別す[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ　憲清ハ
[illegible]中庵[illegible]

[illegible]この連社[illegible]もてなやまして三千
句の俳代[illegible]もの[illegible]紀のゆ[illegible]
[illegible]の不[illegible]仮孫の美
[illegible]て窓[illegible]の[illegible]を訳一新
[illegible]のふ[illegible]を汲[illegible]ふ[illegible]這
[illegible]と養中[illegible]肉を禁ず
西もおもし[illegible]も行[illegible]や
[illegible]庵[illegible]日ハ十三[illegible]

面白く不易もたもつ俳もたもつ

〜や風雅の富こんぢん

乙児子幼童のむかし古六花見こさのゑ俳諧

角世論ゆ俳ゆんとその云こけ〜〜角

きりと序こその笑俳を交よ〜〜ん

十里園　著

男梅五

壻竹卧　補

甲申載三月吉

六の六花傳や沙陀ふるの底ちいて

こと〜盛夏の紅魚を掛ひ六の

小集の後序こちすこ嵐雪翁ち

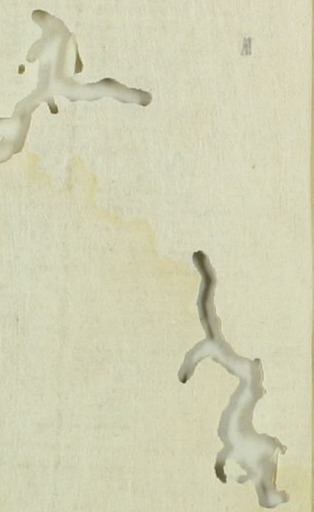
つる〜〜連俳式の一巻ゆ坐上方の

あここ〜〜つる六芭庵の三大字ち

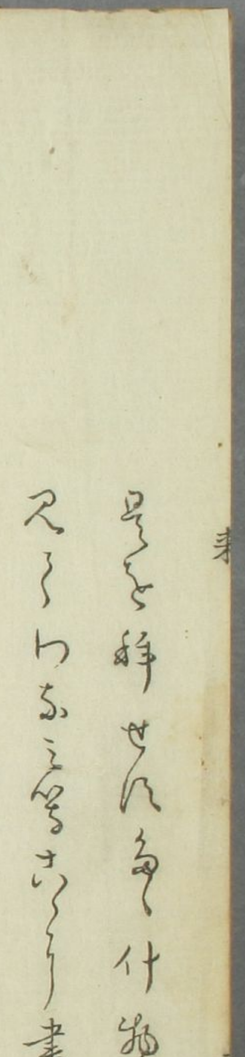
水雲の分のさめふゆ俳ハ六こ〜

十里園の文序ゆあつけ〜門人いこ

品毛



京都書林　二条寺町　橋屋治兵衛

明和戊子年十月

一鏡亭二毛
槌伟子木客